



本日はよくお参り下さいました

本年第一回目の発行となります。今年も宜しくお願い致します。皆さんはどんな年始をお迎えになられたでしょうか。お天気がよかったです。遠出した方も多かったようです。3日以降のお参りが多く感じられました。1月から3月にかけては、受験シーズンとなります。学問の神さま菅原道真公をおまつりする当社では、期間限定で受験当日祈願を行っています。受験生の皆さんには、当日、ご両親やご祖父母、ご兄弟、ご親戚、お友達、たくさんの方が、ご自分のために、神さまにお祈りしていることを、思い出してほしいと思います。どうか気持ちを強く持って、試験に臨めますように。合格発表の時期には、受験生のご健闘を称え、今後のご活躍をお祈りしています。お願いの結果を、天神さまにご奉告され、次につなげてください。皆さまの幸運とご健康を心よりお祈り申し上げます。権禰宜道子



2月

1日・15日 月次祭(つきなみさい) 皇室の弥栄と国家安泰、氏子崇敬者並に社会の幸福と平和を祈ります。

3日 節分立春正月、一陽来復して春になるという考えから立春の前日だけが暦に記載されるようになりました。翌日から年の始めであること、気候が冬から春になるという事で、この日は一年の最後と考えられ、邪気を払い幸せを願ういろいろな行事が行われます。

4日 立春旧暦の上ではこの日が一年の始めとされました。日足が伸び気温は上昇に向かい木々も次第に芽吹きはじめ春の気配がどこにも感じられます。



7日 初午二月最初の午の日。お稲荷さまを祀る行事。

11日 建国記念の日神武天皇即位の第一日、つまり皇紀元年(西暦前660年)正月1日が太陽暦の2月11日にあたるとして明治五年に制定されたことが由来です。

19日 雨水(うすい)「雪散じて水と為る也」とあるように、今まで降った雪や氷が解けて水となり、雪が雨に変わって降るという意味。雨水ぬるみ、草木の発芽を促し、萌芽のきざしが見えてきます。昔から農耕の準備などはこの雨水を目安として始めるとされてきました。

天神さまの豆知識

◎お稲荷さまのお祭り「初午」

初午は稲荷神社のおまつりです。特に京都伏見の稲荷大社は、稲荷信仰の中心で名高く、この日初午詣の人々で大いに賑わいます。伏見稲荷の縁起によると、初午の日を稲荷の縁日と定めたのは、祭神が伊奈利山のみつがみねに降りたのが和銅四年(七一)二月の初午であったからで、このことは山城の国の風土記でも伝えられています。もともと稲荷は稻生(いなり)の意味であるとされ、五穀を司る農業の神さまでした。それが後世、商工業・漁業の神にもなっていく、その後、江戸時代には稲荷が開運の神として非常に盛んに信仰され、町々の小さな祠や屋敷神として、圧倒的に多くおまつりされました。現在でも初午の日には、「正一位稲荷大明神(しょういちいなりだいみょうじん)」と書いたのぼりを立て、お赤飯や油揚げ、お団子などを供えておまつりします。油揚げを供えるのは山と里を歩き来するキツネが豊穰や富をもたらすとして、稲荷神のお使いと信じられているからです。また初午は江戸時代子供が寺子屋に入門する日でもあつ

たそうです。参考文献『神道としたり事典』茂木貞純監修 二〇一四年(株)PHP研究所発行 『現代こよみ 読み解き事典』柏書房発行



今月の言葉

『修行に於いては

これ迄成就といふ

事はなし』

山本常朝「葉隠より」

修行に終わりは無い。一つのことを究めた瞬間はピークでも第一級の技能、精神を維持するには鍛錬を続けていくほかない。自分は達人だと考えたとなん驕りや怠惰の心が生じ鍛錬を怠り錆びついていく。修行が厳しいのではなく、続けることが厳しいのである。何かを成し遂げれば成就であるが、修行においては成就はない。「続ける」という行為こそ修行である。

参考文献『神道のことば』武光誠監修